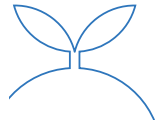


社長インタビュー



地に足のついた 環境活動・社会貢献活動を展開します

世界共通の課題である環境問題に対して、ユニーはどのような対策を実践しているのでしょうか。佐々木孝治代表取締役社長に、ユニーならではの環境保全への取り組みについて、最近の動きを中心に伺いました。



代表取締役社長 佐々木孝治

身近なところから始める環境保全

ユニーが特に力を入れている環境保全活動について教えてください。

佐々木 最近の異常気候をはじめ、私たちの生きている自然環境がどこかおかしくなっているのを肌で感じますが、地球環境をこれ以上悪化させないために、身近なところから取り組んでいます。

ユニーの店舗では、常に照明や空調などにエネルギーを使いますし、水などの天然資源を使って営業をしています。また、営業をしていく上で、包装資材や生鮮食品の調理くずなど廃棄物も排出されます。

こうした日常の中で環境負荷をいかに少なくしていくかが、自然を守っていくことにつながると考えています。

ユニー本社のある愛知県では、2005年春に「愛知万博」が開幕し、環境問題に対して積極的な取り組みがなされています。ユニーでも、愛知県下の店舗や本社事務所をメインに、「クリーンアップキャンペーン」を展開し、店舗やその周辺の道路や公園などの清掃活動を実施しています。

ゴミの排出抑制にはどう対応されていますか。

佐々木 廃棄物の削減やリサイクルに対しての意識を高めています。リサイクルでは分別

を徹底し、できるだけ完全な再生資源として使えるように取り組んでいます。

お客様にご利用いただいているリサイクルボックスの運用については、2003年8月に愛知県弥富町に物流センターを新設した際に「リサイクルセンター」を併設したことで、自社内でのリサイクル品運搬のルートを確立できました。

愛知・三重・岐阜・長野の中京本部の78店舗のリサイクルボックスにお客様が持参されたアルミ缶・牛乳パック・トレイをはじめとするリサイクル品は、自社物流トラック便で「リサイクルセンター」に集められます。圧縮してコンパクトに処理してから各リサイクル工場に運ばれ、100%再生資源として使われます。

また、食品リサイクル法の対策としては、「地域循環システムの構築」を目標に取り組んできました。愛知経済連との連携で3年前から研究をすすめており、生ゴミを堆肥の原料とした有機栽培作物を店舗で販売するというところまでこぎつけました。

2004年秋からは、地元愛知県下の店舗で、実験販売を開始する予定です。

ISO14001取得の波を本社から各本部・各店舗へ

店舗が周囲の環境に及ぼす影響についてどのようにお考えですか。

佐々木 大きな問題ですね。出店や時間延長はその地域のお客様の利便性を高めますが、一方で環境負荷も大きくなるからです。当社は食品の鮮度維持のためにも、周囲への環境負荷抑制のためにも、従業員の厚生面からも、午後10時を営業時間の原則的なリミットとすると同時に、さまざまな対策を講じて環境負荷の低減に努めてまいります。

環境問題に取り組むための組織やシステムはありますか。

佐々木 2001年に環境部を設置し、社内の環境活動を推進しています。また同年、各種環境問題への対応や地域での環境活動などを検討する環境会議を立ち上げました。各本部の担当部署から代表者が集まって検討し、環境負荷をできるだけ少なく省エネ・省資源で運営できる店づくり、および環境に配慮した商品の販売、サービスの提供に取り組んでいます。

2004年1月14日には環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を本社で取得し、継続的な環境活動をユニーのマネジメントシステムに採り入れました。これを皮切りに2004年度には静岡本部、北陸本部で認証取得を実現し、その後関東本部、そして各店舗へと順次拡大していく予定です(詳細は4ページ)。

より大きな課題である「企業の社会的責任」についてお考えをお聞かせください。

佐々木 小売業の第一の使命は、お客様に必要とされる商品を確実に提供することだ、と私たちは考えています。

リージョナルカンパニーであるユニーは、地域のお客様に支えられていることを忘れることなく、足元からの環境活動に取り組みながら、人と環境にやさしい店舗・商品・サービスの提供、そして地に足のついた社会貢献活動を、グループ企業とともに展開していきます。



環境会議組織図

